

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

（令和4年3月7日 午前9時45分）

●議長（佐藤武雄） おはようございます。本日の出席議員は12名全員であります。本日の会議を開きます。一般質問の留意点として、皆さんにお配りしてありますから、参考にして一般質問を行ってください。本日の議事日程はお手元に配布の通りであります。

日程第1、通告による一般質問を行います。質問時間は最大1時間を目途に、質問者、答弁者は進行にご協力をお願いいたします。また、答弁者および質問者の都合により、質問の順序を変更することがありますので、あらかじめご承知おきください。なお、質問者と質問者との間に10分程度の休憩を取ることにいたします。

通告の1、北村富貴夫議員。

- 1 新型コロナウイルスの感染状況について
- 2 脱炭素社会への取り組みについて
- 3 信越病院建設の進捗状況について
- 4 行政改革の取り組みについて

議席番号1番、北村富貴夫議員。

◆1番（北村富貴夫） おはようございます。議席番号1番北村富貴夫です。質問が多くボリュームがありますので、答弁は簡潔明瞭で分かりやすくお願いいたします。また内容が前後する場合がありますので、よろしくお願ひします。質問の内容は同僚議員が過去にも質問し重なる部分もありますが、重要なことなので質問させていただきます。今シーズンは大雪で除雪や雪下ろしが本当に大変でした。町からもいろいろと支援がありますが、春の農作業に影響が出ないよう、排雪や消雪などしっかりと対応していただいております。これから天気が良くなり、融雪が進み、春が待ち遠しいばかりです。最初の質問は新型コロナウイルスの接種状況、感染状況についてお伺ひいたします。町でも新型コロナウイルスの感染者が大勢いるところです。オミクロン株の亜種、BA2の拡大も懸念されています。そして高齢者の皆さんや、持病を抱えている人は大変不安に感じています。そのような中、長野県はまん延防止重点措置を昨日で解除いたしました。全国でも500万人を超えています。ホームページでも積極的に情報を発信されています。ここで改めて質問をします。3月6日現在、長野県では3万3189人、それから信濃町では昨日現在107人と、1.25パーセントが新規感染となっています。日々変わるものですが、重症化や入院リスクを下げる効果があるという、町の全体的な進行状況について、ワクチンの接種の進行状況について、町長にお伺ひしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

■町長（横川正知） おはようございます。北村議員さんから今、コロナウイルスのワクチンの関係でございますが、お尋ねがあったわけでございます。信濃町においても、今お話がございましたように、特に今年に入ってから大変感染者数が増加しているという状況でございます。ご案内のように、今、長野県で昨日現在で、まん延防止法を解除したということでございますが、そうは言っても引き続いて長野県内も、そして私ども町の中でも、依然として感染者数が発生しているということでございますので、町民の皆さん方には改めて感染防止の対応についてお願いしたいなと思います。そこでワクチン接種の状況ということでございますが、基本的には医療従事者、高齢者の施設、あるいは、その入居者とか従事者ですね、高齢者については2月の中旬に既に終了しているところでございます。そしてまた、65歳以上の皆さん方について、今、進めておりますが、これも3月の8日頃、1日、2日のうちに対象者については一応終わる。今、高齢者と言われる65歳以上の接種率については3月4日現在で接種率が84.3パーセントという状況になっております。この後、65歳以下の接種に続いているわけでございますが、全体の計画の中では、4月の中旬、あるいは中旬前に、それぞれワクチン接種を完了したいというようなことで進めているところでございます。私ども末端の自治体としても、当初の1回目、2回目もそうなのですが国の計画が当初示されたものから絶えず前倒しというような指示があるわけございまして、そういった面では私ども実行する自治体とすれば、大変戸惑いを持ちつつ対応して行かなければということで苦勞も多いわけですが、懸命に早めの接種を終えるように努力をしている最中でございますので、よろしくお願いたします。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） ただいまの町長の答弁の中で4月中旬の頃には、おおよそ終わってくるのではというような状況をお伺いいたしました。なるべく早めにいろいろと進めていただければと思いますが、今現在3回目のワクチンの接種状況、このへんのことについてお伺いしたいと思います。公表されたデータでは3月4日、日本全体では全人口の22.9パーセントと、長野県では24.3パーセントという数字が出ておりますが、信濃町ではどのくらい進んでいるのでしょうか、そのへん担当課長の方にお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） それでは私のほうからお答えさせていただきます。3回目の接種につきましては、18歳以上で2回目を接種した方が対象となるわけございまして、信濃町の人口のうち、現時点で6331の方が対象となっております。その中で3月4日現在の接種でございますけれども、3月4日で完了された方が2862人でございまして、率にして全体で45.2パーセントでございます。65歳以上の方につきましては、通知を発送した方、また6カ月を経過しない方もおられますので、対象者が3214人居るわけでございますけれども、うち、2709人が完了しておりますので、84.3パーセン

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

トの接種率となっているわけでございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 町の広報誌やオフトークにおいてもワクチンの接種を進めていますけれども、実際に今後64歳以下ということで進んで行かれると思いますけれども、このへんの対応について持病のある64歳以下、そういう方についてはどのような対応をされているのか、そのへんもお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 64歳以下につきましても、もう既に接種の通知を送らせていただいております、順次接種を進めてまいります。基礎疾患をお持ちの方につきましては、最初に年齢の上の方から通知をお出ししておりますので、60歳から64歳の方に通知を出すのと同時に基礎疾患をお持ちの方、前回も早めに打っておりますので、こちらで把握してございますので、3月の上中旬に接種ができるように、準備をしてやっていますところでございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 3月中旬くらいにはおおよそ進んで終わってくるのではないかとということでございます。それでは、いよいよその下の年代ということで、5歳から11歳、そういう子どもへの対応について、長野県では3月上旬からというような言葉が出ておりましたけれども、このへんについて信濃町はどのような対応をされていくのか、今後その辺についてお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 5歳から11歳の子どもについてですが、長野県の方針として重症化リスクの高い基礎疾患のある子どもには、速やかに接種機会を提供し、接種を進めることとしております。またそれ以外の子どもにつきましても、希望者ができるだけ早期に接種を受けられる体制を整備するとしており、信濃町においては、先日の2月24日に接種を希望するか否かと基礎疾患の有無を確認するための文書を発送いたしました。保護者の方に発送いたしまして、現在とりまとめ中でございます。接種につきましては、信越病院とも意思疎通を図っております、信越病院の小児科で、個別接種で対応して行く予定でございますけれども、3月の下旬、3月25日頃から接種を開始してまいりたいと考えてございます。信越病院は通常の小児科診療も行っておりますので希望者の人数を確認した上で接種の曜日を決めて順次進めて行く予定としておりますので、お願いをいたします。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 3月25日からというご回答をいただきました。しっかりと、これちょうど春休み中でもありますし、やっただければと思います。実際には1回目が11歳で2回目が12歳というような年をまたぐそういうお子さんもいらっしゃると思います。こういう方についても対応されると思いますけれども、このへんの対応、12歳からはもう大人の対応ということになるのでしょうか、そのへんもちょっと確認だけしておきます。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 12歳のお子さんにつきましても、誕生日を迎えますといわゆる12歳以上18歳未満の子どもたちと一緒に状況になりますので、1回打てば良いその状況になります。あくまで5歳から11歳の子どもについて接種していくのだということですが、12歳から18歳未満につきましても、現在もまとめながら信越病院で行っておりますので、どちらかの対応で進めてまいるといってございまして、漏れ落ちは無ないように接種を進めていく予定でございまして。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） このワクチン接種については、漏れ落ち、それから全体の問題ですので、やはり早めにやっただけが必要だと思っておりますので今後もしっかりとお願いしたいと思います。実際に今後、我々、先日県議会でも新型コロナの陽性というようなことで出てまいりまして、委員会が中止になったという事例が出ました。実際に今後、町長はじめ職員、それから我々議員、いつどうなるか分からないという時代に、接触機会を少なくしなければなりませんけれども、こういう、いろいろな今後感染症も考えられます。そのような中でオンラインやリモートなどについては、どのように考えているか、そのへんだけお伺いしておきます。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、行政の中でも、できるだけ接触の機会を減らすというようなことで、様々な研修だとか会議だとかというのは、ほとんど今、ウェブ会議と言いますか、そのようなことで対応しているところでございまして。しばらくこういう状況が続くのかなと思っておりますし、状況を見ながら対応していきたいと思っております。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） ウェブ会議等、実際に研修等も我々もそのようにさせていただい

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

ていますけれども、やはりしっかりと、リモート会議も必要になってくることもありますので、今後ぜひ検討していただきたい、そしてしっかりと皆さん、町の職員もそうですけれども、やはり安心して、こういういろいろな感染症も含めて暮らせる対応をしていくべきと考えています。どうぞよろしく願いいたします。次の質問です。脱炭素社会、カーボンニュートラル、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を実質ゼロに抑える社会ということですが、以前は二酸化炭素の排出量を可能な限り削減する、低炭素社会の実現が世界の目標となっていましたけれども、それだけでは地球温暖化に歯止めをかけることができないという考えから、脱炭素社会の実現に向けて世界や日本が動き始めています。2020年の10月に、菅首相が所信表明演説の中で、2050年までに二酸化炭素の排出量を全体としてゼロにする、2050年カーボンニュートラルの実現を目指すというものでした。そういうものが演説にありました。県議会でも令和2年9月に定例会において、脱炭素社会条例を委員提案し全会一致をもって可決されています。本条例については、令和元年6月に軽井沢町で開催されたG21持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合に合わせて、長野県等が発表した、持続可能な社会づくりのための共同に関する長野宣言を契機に、環境政策に関する議員提案条例の制定に向け、環境政策推進条例制定検討調査会を設置し、県民の皆さまから意見の募集を行いつつ検討を重ねています。令和元年10月に発生した東日本台風災害により、本県を含めて甚大な被害が生じたことから気候非常事態宣言が長野県で行われました。こうした長野宣言や気候非常事態宣言をふまえて、2050年までに二酸化炭素の排出量ゼロにすること、県民一丸となって持続可能な脱炭素社会づくりを推進することを記して条例が制定されております。信濃町の第6次長期振興計画では、現状と課題として、第3次信濃町地球温暖化防止実行計画に基づき、町の事業等に伴う二酸化炭素抑制の取り組みが続けられており、二酸化炭素排出量は減少傾向が続いている。引き続き温室効果ガスの排出を抑制すると同時に、町の資源である森林活用を整備活用することで低炭素社会の実現と町の産業の振興を両立していくと記載されています。まず、平成28年度からこれが計画されていますけれども、二酸化炭素排出量を平成34年度までに、平成34年、来年ですね、削減目標を3パーセントとしていますけれども、これ実際に具体的にどのくらい減少しているのでしょうか。このへんについてお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 数字に関するご質問ですので私のほうからお答えさせていただきますが、第3次温暖化防止実行計画、事務事業編と言うのですが、策定した信濃町の温室効果ガスの総排出量がございまして、目標値が平成28年度の目標値で2520.4トンに対しまして、令和元年度の排出量になります、2188トンでございまして、13.19パーセントが削減されている状況でございまして。この数字につきまして、電気、それから灯油、ガソリン、軽油等のその燃料系、その他の使用量の合計値、重量で示した数字であります。この第3次温暖化防止実行計画には事務事業編というものと、区域事業編というものがあつたのですが、区域事業編といつたのは中核市、そういった

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

大きな市については、その区域事業編、工場ですとかそういったものも含めた目標値を定めるその策定義務があるのですけれども、うちのほう、信濃町については事務事業編とって、公共施設の目標値で定めた数字でございますので、ご理解をいただきたいですけれども、元年との数値で13.19パーセントということをお願いをいたします。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 13パーセント削減されているというふうに考えてよろしいですか。この取り組み、これはやはり排出量をなるべく減らしていかなければなりませんし、今後、今、信濃町ではこの低炭素社会という言葉を使っていますけれども、この脱炭素までこの取り組みはどのように考えているか、それをお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 今後、長期振興計画の後期計画も策定をしておりますので、そういった中で低炭素社会ではなくて、脱炭素社会というような形で計画のほうも修正といいますか変更してまいりたいというふうに思います。以前、世界は低炭素社会を目指しておりまして2015年のパリ協定で決まった世界の平均気温を1.5度から2度抑えるという目標が低炭素社会では難しいため、脱炭素社会を目指すことになったというふうに認識をしております。当然、二酸化炭素の排出量を削減する低炭素社会と二酸化炭素の排出量をゼロにする脱炭素社会では、取り組みのハードルの高さが違います。日本政府はグリーン成長戦略といわれるエネルギー関連産業4分野、輸出製造関連産業7分野、家庭オフィス関連産業3分野、計14分野の実行計画が策定されています。国の戦略は産業政策に関わる施策になっていますが、長野県もゼロカーボン戦略を策定し、社会変革、経済発展と共に実現可能な脱炭素社会づくりを推進しようとしています。町も長野県の取り組みや近隣自治体等と連携をして取り組みを行っていかねばならない状況だと思います。それこそ、今までと違う生活スタイルになることも考えられますし、町民の皆さんにもご理解をいただく中で足並みを揃えて行動していくことになろうと思います。なお、国内外の動向をふまえ、長野地域連携中枢都市圏、9市町村、長野市を中心とする9市町村では、いわゆる特性を活かした温暖化対策を講じ、構成する9市町村でスクラムを組み、長野県そして国とこれまで以上の連携を図り、2050年二酸化炭素の排出、実質ゼロを目指す、ゼロカーボン宣言を令和4年2月14日に発出をいたしました。信濃町も9市町村の一員で賛同をしておるところでございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 9市町村により連携してゼロカーボン戦略をぜひこれは進めなければならないと思います。その中で、この森林資源の整備活用をということを記載されていますけれども、過去にも質問しました経営管理制度の、これで伐採植林、この進捗、

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

そのへんの状況についてもお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 森林経営管理制度につきましては、2月末に調査のベースマップとなる森林整備のマッピングシステムの構築が完了したところです。今後ですけれども、対象森林を抽出して順次意向調査を進めていく予定にしております。それから伐採植林についてですが、従来からの林班単位での森林経営計画による整備を今後進めるとともに、森林経営に適さない森林で整備することが望ましい森林については、森林環境税の剰余税を活用した新たな森林管理制度に基づく森林整備を間伐と再造林を適切に実施してまいりたいというふうに考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） こちらについてはしっかりと取り組まれていると思っております。その中で今、通常の1.5倍の成長というエリートツリーというものが、今出てきております。こういうものを政府では2050年までに苗木の9割以上をこういうものにするのだというような取り組みが言われておりますけれども、このへんについての考え方についてお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） エリートツリーに関しましては、情報も1市場に数百本程度出ているという、数も少ない状況でございます。ただ成長も早い分、下草刈り等の生育にかかる経費が少なくなりますので、森林全体で考えると全体に費やす経費が削減されますので効果は非常に大きいのかなというふうに思います。そういうことも含めまして、また研究等も進めていきたいというふうに思います。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 政府の考え方は苗木で9割以上と言っていますので、段々にやっで行かなければならないと思います。そしてもう一つは、この私も含めて春は花粉症の方、本当に悩ましい季節なのですが、やはり無花粉杉、小花粉杉、こんなものも供給されています。花粉症の主な原因であるスギやヒノキ、一方で持続的な森林資源の循環利用のためにはスギやヒノキも重要な造林樹種であることには変わりありません。花粉症は無くしたいのですが、スギやヒノキは日本の林業には欠かせないものです。もうこの課題を解決するためにヒノキの花粉が少ない品種、無花粉スギとか、少花粉スギというのも開発されています。いろいろな情報がありますが、花粉症の発症率は全国1位が山梨で44パーセント、長野県では26位なのですが、25パーセントで4人に

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

1人はもう花粉症なのです。隣の新潟県では38位で15パーセントという、こういう統計が実際ネットで出ています。ぜひこの無花粉スギについて、そのように考えているか、課長の答弁を伺いたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 現状、無花粉スギ、それから花粉の少ないスギで、苗木の生産の今、林野庁の統計を見ますと5割を占めているというような状況でございました。切って使って植えるサイクルの確立ということで、その中に組み込んで行ければ理想なのかなというふうには思います。以上です

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 東京都の多摩地区では無花粉スギを植林する運動、そういうものもしています。信濃町ではこういうエリートツリーや無花粉スギ、こういうものを植林して環境に貢献したらと思っています。花粉症の方もたくさんいらっしゃいますので、環境にも優しい、それから人にも優しい、そして観光政策にも大変有効ではあると思っています。樹林が多いから花粉症が多いとは限りませんし、針葉樹ばかりでは広葉樹落葉樹も必要です。ぜひ、こういうものを考えていただき、観光誘客、そういうものに対応していただければと、ぜひ検討を始めていただきたい。次に、みどり戦略についてお伺いしたいと思います。農業のみどり戦略ですけれども、これも、いろいろとネット等の情報が、いろいろと出ているのですけれども、農水省は昨年、農業の生産力の向上と持続性の両立の実現を目指すと、みどりの食料システム戦略というのを策定しています。これも先ほどと同じ2050年なのですが、CO₂ゼロ、二酸化炭素ゼロという、そして、有機農業、こういう取り組み面積を増やすのだということを、今、言っているのですけれども、しかし、このみどりのこの戦略では、農業者の減少、高齢化による生産規模の脆弱化、こういう問題がなかなか解決できません。こういう世界的にSDGSや環境への対応が重視されるようになったことをふまえて、こういうみどりの戦略は実際に作成されました。この中ではいろいろなことが言われていますけれども、一番は二酸化炭素の排出量ゼロですね、それから、農薬を実際使用しなくても済むような、そういう新規の農薬というのですけれども、そういうようなものが実際できるかどうか、そういうもの、それから、輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料、こういうものをだんだん減らしていくのだと、それから耕地面積は有機農業の面積を増やして、農業者がもっと多く取り組むことができる、そういう技術を開発していくと、それから2050年までにはオーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取り組みを、面積割合を25パーセント、100万ヘクタール拡大することを目指すと記載されています。こういう課題がいろいろとありますけれども、実際に今回の戦略では生産現場からの声をふまえて、農業の現場で培われた優れた技術の横展開と持続可能な革新的な技術、それから生産体系の開発と組み合わせることも強調しているものです。それでこの戦略が目指す持

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

持続可能な食料システムの構築は食料自給率の向上と食料安全保障の確立を確かなものにするにも繋がると強調しています。実際に信濃町の取り組み状況について、今、お伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） みどりの食料システム戦略につきまして、昨年5月に決定されたというようなことで、有機農業の推進であるとか、化学肥料の使用量30パーセント減、農薬の使用量50パーセント減とか、いろいろとございます。まだ具体的なメニューは、まだ今年になって説明を受けたりしている段階でございます。若干、来年の取り組みでできるものを始めて行きたいと考えているところで、県とも打ち合わせをしているところでございます。目標年度が2050年ということで、いろいろと大きな流れがあるのですが、今、始める段階というようなことで、実施について今、検討しているところです。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 実際に昨年度こういうものが出てきたわけですが、今後、実際、今後こういうものが対応していくようになるということですので、ぜひ進めていただければと思います。その中で、優良農地の集約化というの也被言われているのですが、このへんは実際に今、進んでいるところをお聞かせください。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 信濃町、耕地面積が約1500ヘクタールということで、担い手の集積ということで、1500ヘクタールのうち、782ヘクタール、直近に52パーセントというような集積が行われているところです。今後も集積を増やすような形で、進めていけたらと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 1500ヘクタールで782ヘクタールが担い手の集約にされているということで、52パーセントということですが、今後、更に目標を高く持って、集約を上げていただければと思います。それから、有機肥料等への取り組みの助成については、何かされているのでしょうか。これはもう一つ、農薬の減少への取り組みと合わせてお聞かせいただければと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 有機肥料の助成ということですが、JAながのの米穀部

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

会を通じまして、町からの補助を行っております。これにつきまして、堆肥の施用と農薬使用50パーセント減というようなことで、環境保全型ということで、国県で4分の3の補助、それから町で4分の1の補助をしております。令和3年の実績で19ヘクタールほどの実績がございました。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 実際に19ヘクタール、もう更にこれは伸ばしていかなければならないものだと思っています。ぜひ今後も進めていただきたい。この環境に優しいという点では、この農業とはちょっと違いますけれども、EV電気自動車がこれから増えていくと思いますけれども、このへんは、どのように考えているのか、それから冬は大変今、厳しいかもしれませんけど、夏場の観光対策に有効と考えますけれどもいかがか、そのへんについてお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 公用車、電気自動車関係のことで私のほうからお答えをしたいと思います。今、議員さんがおっしゃる通り、冬期間という話になりますので、今のところ電気自動車自体の4WD車が少ない状況でございます。それとEV車の主流はリチウムイオン電池を搭載しています。リチウムイオン電池の特性とすると、気温の低いこういう場所で使う時には、急速充電をすると一気に劣化をしますので、このリチウムイオン電池自体が。とすると、なかなか今のところの技術では、ちょっと厳しい状況かなと思っています。ただ町のほうの公用車とすれば、低公害車の導入を進めている状況でございます。これも環境基本計画で令和6年度の目標値として6.6パーセントという数値を示しておりますが、現在はもう7.5パーセントということで、HVを導入する中で、進めているという状況でございます。公用車については以上ということでお願いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 公用車についてはそういうような内容で、確かにリチウムイオン電池だとちょっと厳しいものがあるのかもしれませんが。しかし、他の市町村、特に白馬村では電気スタンドを29あります。それから山ノ内町でも8電気スタンドがある。信濃町をいろいろ見てみますと3カ所ございました。こういうものについての今後の増設とか、そういうもので観光客の誘致に、誘客にすごく大変有用ではないかなとおもうのですけれども、そのへんについてはいかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 観光の誘客ということですが、現在、道の駅しなの、そ

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

れから宿泊の事業者さんで2カ所ということで、合計3カ所の電気スタンドが町内にあるということです。ただ、電気自動車の普及は、今、普及率がまだ1パーセント程度ということです。今後の状況等を見る中で、宿泊情報への追加とPR等も含めて検討できればと考えているところです。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 環境にも優しい、それから二酸化炭素排出量ゼロという点では、こういうものが今後普及していくであろうと思いますので、ぜひ町としても考えていただければと思います。それから、環境省がガイドブックを公表して、脱炭素先行地域として、事業費の補助方針を示して、先日NHKのニュース等でもやっていたけれども、松本市、それから飯田市と、それから隣の妙高市、佐渡市等が応募しています。空気の美味しい信濃町、カーボンニュートラルを推進している信濃町をもっとアピールして、電気自動車で安心して観光に来てもらう、こういう、第1回目の募集は終わったようですけれども、今後この応募については考えているのでしょうか。産業観光課長。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、議員さんがご指摘の分野というのは、近い将来と言いますか、大変重要になってくるであろうな、とは思っております。今のこの、いわゆる電気自動車の普及がどういうふうになっていくかということも、やはり片方では見ていかなければいけないのではないかな、と思います。そういった意味では、適時適切な対応を取って、今後いかなければいけないなと思うのですが、私どもの公がそのことを率先してやるのが良いのか、あるいは地域の中での事業者を含めて、そのような対策を講ずるのが良いのか、様々な角度を含めて、遅れのないような方法をとって対応を考えていきたいと思っております。また、今、前段の中で妙高市であるとか、いろいろな補助金関係の事業、お話があったわけですが、それらについても、状況を的確に把握しながら、取り入れるべく時期には適切に対応してまいりたいと思っております。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） ぜひ、隣の妙高市や佐渡市、佐渡市は良いとしても、妙高市がやっているというところを見ると、やはりこの辺りも一緒になってやれるようなものではないかなと、こういう脱二酸化炭素の先行地域というのが、第1回の募集が終わりました。また第2回もあると思いますので、ぜひ検討を始めていただければと思います。それから、信濃町独自で、こういう電気を、その先ほどのガイドブックの中にも、独自の水力発電、そういうものも発電して住民に還元するしくみ、こういう信濃町の標高の高い地域ならではの取り組みというのは、そういうものを検討したらと思いますけれども、そのへんについて何かご意見ありませんか、ぜひ聞きたい、お伺いしたいのですが。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、新しいエネルギーの導入というのは、極めて日本国内でも重要になってきているということでもあります。そういう中でも、小水力発電だとか、さまざまな取り組み、各自治体でもやり始めております。私どもも今、1カ所、ある大学の先生が、水力発電、特にこれは降雪地域、雪の多い地域で管理も含めてどういうふうになるかということ、実験と言いますか、そんな装置で今、やっております。そういった状況もふまえて、今後の中でもし活かせる状況があつて、費用対効果も含めて、対応ができるとすれば、そういったことも活用していくということは、大事になってくるかなと思っております。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） ぜひ、環境問題と観光、こういうものに直結するものです。信濃町をもっとアピールしていくべきだと思います。ちょっと時間も限られていますので、次の質問に移らせていただきます。信越病院の進捗状況、建設に関わる質問です。旧柏原小学校の解体にかかる、家屋調査については以前質問しましたが、検討中だったと思います。その後、どのように検討されたのかお伺いいたします。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 本年度の1月の議会の時に、1月7日の時に、議員の皆さまに対しまして、全員協議会の中で基本設計の概要をご説明させていただきました。その後、基本設計の再度、詳細を詰めて、今、事業の精査を継続しているところでございます。ご質問の家屋調査につきましては、まず工法として、原則解体工事は周辺環境に配慮し、生活環境に影響が起らない方法、これが大前提ということです。では具体的にどんな工法かということ、解体設計業者と本体の設計業者と詰めさせていただいてございます。その中で、国土交通省の解体工事の共通仕様書も含めた中で、前提として、解体工事の調査につきましては、周辺住民の環境および負荷を十分に配慮した仕様とさせていただきますので、基本的には事前の家屋調査は行わない方向で今、進んでございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 基本的に行わないということでもありますけれども、その根拠が良く分からないところが1つあるのが、やはり地盤がどういうことである、しっかりした岩盤であるのか、軟弱地盤等であれば、やはりトラックの通行等となると、家屋、それから塀ですとか、ヒビというものも入る可能性は必ずあるわけです。そういうものにつ

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

いても、保障していく考えでよろしいですか。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 旧柏原小学校の跡地に整備におきましては、1番近い施設、敷地内にあるその気象観測器が置いてあるところがございます。あそこが隣接というか敷地内にありますので、その気象観測については継続して観測していくという状況になっています。場所としては、プールの西側に設置されておるのですが、そこが工事、解体工事、建設工事に影響が及ぶのではないかと考えておるところでございます。そこを1番クリアしなければならない、そこをクリアできれば周辺住民のところも環境に影響はないと考えております。この件につきましては長野気象台との協議をさせていただいております。建設工事期間中、観測環境の条件を確認させていただいて、仮設フェンス、粉塵対策、振動対策について指示は受けてございます。その工法によって解体工事に反映してございますので、基本的には1番近いところに影響がないかたちで進めさせていただきたいと考えております。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 今の回答ですと、アメダスには影響がないということであるから家屋調査もやらないのだというようなお話と聞きました。では実際にトラック等が通行して、あのへん塀とか、実際に壁とか、ヒビ等が入った場合の補償は考えているということでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） 繰り返しになるのですが、基本的には、もちろん周辺住民の皆さまにはご説明させていただきますが、基本的には影響のない工法ということで、設計してございます。議員が想定されるような事態がもしあったとした場合は、その場でご協議させていただくという形になります。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 影響のないようにやっていただくのが一番良いわけですから、そこで、その周辺道路についてお伺いします。以前の説明では令和7年度以降に今後検討していくのだというようなお話です。それから前の町長の全員協議会の中でもお話が出たのは、アメダスの移設は考えていないということであれば、このへんは、実際に検討すると言っても、アメダスが移設しなければ、実際にあの道は広がらないのではないかと思います。立木の伐採についても考えているようですけれども、拡幅についてのその解答について、令和7年度と言っているながらアメダスの移設はしないというような話が

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

ありましたので、そのへんについての考え方をもう一度お話いただければと思います。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） 北村議員のご質問にお答えしたいと思います。前回12月の時にもちょっとお話させていただきました建設予定地につきまして、その関連道路ということで、学校の関係になりますけれども、小前線の工事の方を先行させていただきたいということは、前々からお話をさせていただいております。つきまして、その西側のほうの緑が丘線につきましては、建設工事等々の予算的な問題もありますので、それにつきましては7年度以降、建設をさせていただくというような方向で、検討させていただくということで、その部分については当初と変わっておりません。それに掛かりまして、当然、拡幅で先ほど病院事業の方でお話のありました、プールの西側にありますアメダスの関係でございますけれども、こちらにつきましても、拡幅等々において、必要が出て来た場合については、気象庁との設置において協議をさせていただいて、必要があれば移動もしていただくような形で考えています。今、実際にそのところに直接影響がまだどうなってくるかというのは、未確定でございますので、実際の施工になりました段階で協議をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） そういうことであれば、また令和7年度以降検討する段階で、ぜひその部分も検討していただければと思います。それから病院へのアクセス、そうやって考えていくと、黒姫駅入口となりますカドマンさんがある交差点、その辺をもっと拡幅して、案内看板をしっかりと出したらどうかという思いもあるのですが、そういうものも、県に要望していったらどうかと思うのですが、そのへんはいかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） 議員のほうのおっしゃる通り、県道関係でございますので、当然工事等々において、その建設工事などがスムーズに進めるように、また県とも協議して、お願いできる部分についてはそういった看板等についても設置できる状況であれば、していけるように細かい部分ではございますけれども、要望等を進める中でお願いをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 住民への説明とか、そういうものをしっかりしていただいて、今後も継続して進めていただければと思います。最後の質問です。行政改革について質問

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

します。進化論を唱えたダーウィンは、この世に生き残れる生き物というのは、変化に対応できる生き物だと、そういう考え方を示したと言われていています。我々、前の職場でも良く言われたのですが、町長の招集の挨拶でもありましたが、変化や時代の流れに即応した施策を国や県と協調して展開できるように努めるとして、町でも、第7次行政改革大綱の中で、行財政改革プランを平成17年11月に平成18年から平成32年までの15年間の行財政運営について、財政の健全化を図り、自立した町民協同の町づくりをすることを目的と策定された計画でしたというもので、これにより、実際にやってきたのは、多分組織改革、それからこの人口減少に伴って職員数の減少、それから脱印鑑、こんなようなものが、いろいろと対応されていますけれども、この15年間の成果を、そして現状はどうでしょうか、そのへんについてお伺いいたします。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） 行革のとりまとめをしております、総務課でございますので私のほうからお答えをさせていただきます。第7次行革大綱につきましては、平成27年度から5年間、平成31年までの間の行革に取り組んできたところでございます。その中で、ほぼAという評価をしたわけでございますが、中にはCまたはBという結果に終わったところもございます。主には、そうなったものとする、3館の入館者数等になるかと思っております。ただ、そのうちナウマンゾウ博物館は27年当時Cでございましたが、31年度の目標値の時には30年にリニューアルオープンをした状況で入館者数が増加をしておりました。31年の時に目標が達成できるという、もう見える段階まで来たわけでございますが、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、緊急事態宣言が国から発出され、小中学校も休校となったところでございます。その点で、3月時点で休館にせざるを得ない状況でございました。またその時には発掘調査も予定をされておいて、全国から来ていただく予定でございましたので、軽くその目標値は超えるという状況であったのですが、残念ながらそこへ達成できなかったということでございます。また童話館、一茶記念館についても、その目標値には達成できなかったというのが現況でございます。今後とも童話館については、今ファンベースという形で入館者数の増を目指しておりますし、一茶記念館については入館者数が伸びませんので歳出削減を進めて何とかもたせようという状況でございます。そういう形で今後ともしっかり進めていきたいと考えているところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 行革の評価、その検証シートでは、平成27年度にC評価が4つありました。それが今の回答でだいぶ分かりましたけれども、コロナ禍ということになりまして、大変なことでも見えますが、今後もぜひ進めていただきたい。それから最後の質問になります、行政改革で、ペーパーレスの取り組みを実際されていますが、そのへんについてお伺いをしたいと思います。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） ペーパーレスの取り組みにつきましては、国においてはデジタル庁が創設されまして、押印の廃止を進め、それによってペーパーレス化を進めて行くということでございます。当町においても本年度、押印の廃止を行いまして、今後利便性を向上させオンライン化が進むことでペーパーレス化が繋がっていかねばと考えている中でございます。現在も長野県市町村自治振興組合が運営しております、長野電子サービスを利用して、自宅やパソコンスマートフォンからの利用で申請届出できるサービスも行っております。この新型コロナの関係で、県外で帰省が困難な学生に対して食料や生活用品を送付している事業を行っているわけですが、そういったものの申請、それからメディカルトレーナーや、癒しの森などの養成講座の申し込み、利子補給の届出などもそのオンラインで受け付けをしております。また町県民税の申告もエルタックス、また国税のイータックス、また農林関係でも農水省の共通申請サービスというのも始まっておりますので、認定農業者の申請とかも電子的に進めておるわけしております。また議員さんにお配りしています例規集もタブレット化を進めておりますし、今後とも随時進めていかねばと考えているところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） ぜひ、今の取り組み状況を更に進めていただきたいと思っております。行政改革が進んでも、町民へのサービスなどを疎かにしないようお願いして質問を終わります。

●議長（佐藤武雄） 以上で北村富貴夫議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。10時55分まで休憩といたします。

（終了 午前10時47分）